

平成27年度 学校自己評価システムシート (県立杉戸農業高等学校)

目指す学校像	いのちとみどりを育む学舎で、人間性豊かな心身ともにたくましい産業人を育成する。
--------	---

重点目標	1 学力向上に向けた教育活動の充実・改善 2 生徒の進路希望を実現する指導の充実 3 規範意識の醸成及び社会人としての生活習慣の定着
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	9名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 (1 月 2 0 日 現 在)		
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度
1	<p>本校には幅広い学力層の生徒が入学している。しっかりと授業を受け、授業満足度の高い生徒がいる一方、教科によっては、高校生として求められる学力が身に付いていない生徒もいる状況にある。この生徒全体の指導、底上げが必要である。</p> <p>そこで、生徒の実態に応じた指導に取り組み、全員に基礎学力、そして思考力を定着させ学力の伸長を図る方法を実践する。</p> <p>また、各種の資格取得を積極的に奨励し、生徒に自信をもって主体的に学習に取り組む姿勢を身に付けさせる。</p>	○高校生として求められる基礎学力の定着	①年1回以上の管理職による授業観察とフィードバック ②きめ細やかな成績不良者に対する指導の実施 ③生徒の家庭学習を習慣づける指導の実施	①管理職による授業観察を実施し、成果と課題を授業者へ伝え、授業改善が進められたか。 ②追認定試験合格者が増加し、成績不良者が減少したか。 ③生徒アンケートでの「日頃学習しない」生徒が減少したか。	①年間をとおして随時授業観察を実施し、その都度、成果と課題を授業者へ伝えた。年次研修者、臨任者は研修時にも実施した。 ②追認定試験合格率(1、2学期)は、12.9%低下した。 ③「日頃学習しない」生徒が7.3%増加した。「日頃学習しない」生徒が7.3%増加した。	B
		○「生徒に考えさせる」農業教育の実践	①各科で「生徒に考えさせる」ことを主眼に置いた教育内容・教育方法を検討し、1年次から3年次までの計画的な指導の実施 ②学校農業クラブ活動をおとした「生徒に考えさせる」指導の実施	①各科で「生徒に考えさせる」ことを主眼に置いた教育内容を検討し、今年度中に具体的な方策を明らかにできたか。 ②県大会以上での入賞者が増加したか。	①教育課程検討委員会を7回実施し、平成29年度入学生の教育課程を完成させた。 ②県大会以上での入賞者は49名で7名増加した。	A
		○主体的に学ぶ学習意欲の向上	①資格取得に向けた補習等の効果的な実施 ②高度な資格取得に向けた計画的な指導の実施	①知事表彰者が増加したか。 ②職業能力開発普及協会等と連携して、高度な資格取得に向けた計画的な指導が実施できたか。	①埼玉県高校生専門資格等取得表彰(知事表彰)者は、昨年度と同数の79名となった。 ②農業技術検定2級3名、3級57名。園芸装飾技能検定3級3名。フラワー装飾技能検定3級11名。造園技能検定2級1名、3級21名となり、昨年並みの合格者数となり、計画的な指導を実施することができた。	A
2	<p>生徒の進路希望は、大学、専門学校、就職、自営等、多岐にわたっている。計画的、継続的な指導の結果、昨年度、就職決定率99%、進学決定率100%となったが、3年生の進路希望実現100%のためには、生徒自身に明確な進路意識を持たせ目標に向け計画的に取り組ませることが重要である。また、卒業後、早期に離職することなく定着するための指導も必要となってくる。</p> <p>生徒の多様なニーズに応えるために、1年次から生徒の希望する進路を実現するための支援に計画的、組織的に取り組む。</p>	○農業、関連産業の担い手の増加	①1年生全員の農業・関連産業へのインターンシップの実施	①1年生全員が参加し、農業・関連産業への興味関心が高まったか	①インターンシップに237名が出席(2名欠席)し、農業・関連産業に従事したいとの回答が2.9%増加した。	A
		○進路希望の100%の実現 ①4年制大学等への進学者の計画的な指導の実施 ②4年制大学等への進学者の中途退学者の防止 ③就職希望者の就職決定率100% ④就職後の定着率の増加	①組織的な進学補習、小論文指導の方法を検討し実施する。 ②進学決定後に進学先に対応するための補習等を実施する。 ③職員、就職支援アドバイザー、企業人事担当者による面接指導の充実 ④就職後の早期離職率を下げるための指導の充実	①効果的な指導を検討・実施し、進学希望者の進路希望が決定したか。 ②4年制大学等への進学者の中途退学者が減少したか。 ③面接が原因であると思われる就職試験不合格者が減少したか。 ④就職先選択及び就職試験合格後の指導の内容・回数を検討し、ガイダンス等の指導を実施できたか。	①進学希望者の進学決定率は98.6%(未定1名)である。(3月12日現在) ②補習を実施した。また、中途退学者は0人である。(3月12日現在) ③学科等と連携し、企業人事担当者、就職支援アドバイザーに就職希望者全員が面接指導を受け、就職決定率は100%(未定者0名)である。(3月12日現在) ④就職試験合格後の指導の内容を検討し、12月に「就職における心構え」のガイダンスを実施した。	B
3	<p>継続的な指導により、通学時の自転車事故は、昨年度6件と40%減少し、交通安全教育の効果が表れた。遅刻者数も昨年度より19%減った。あいさつをする生徒も多く、また朝読書の実施から心落ち着いた状態で整然と1日のスタートを切ることができるようになった。</p> <p>しかし、携帯電話、SNS等の普及で、生徒間のコミュニケーション不足からのネットトラブルが問題となっている。引き続き日常生活における規範意識を醸成するとともに、予防的な生徒指導に取り組む。</p>	○通学時の交通事故の減少	①外部機関と緊密に連携し、交通法規を遵守させる立哨指導、交通安全教室の実施 ②自転車点検、雨天時の雨合羽着用指導の実施	①交通事故件数が減少したか。 ②整備不良自転車の減少、雨合羽着用が定着したか。	①交通事故発生件数は10件であり、4件増加した(3月1日現在)。 ②自転車点検を4月、9月に実施し、整備不良自転車減少に努めた。雨合羽指導では1回あたり14名の指導を実施した。	B
		○携帯電話指導等による生徒のコミュニケーション能力の育成	①携帯電話等についての生徒指導方針を検討し、その検討結果に基づいて指導することによって、携帯電話利用マナーやコミュニケーション能力を育成する。	①携帯電話等の利用の新しい指導の方針を検討し、今年度中に方向性を明らかにできたか。	①携帯電話の指導に関するアンケートを実施し、来年度の指導方針の変更に向けて慎重に検討を行っている。	B
		○遅刻者の減少	①登校時の遅刻指導はもとより、平素の授業時から「時間を守る」指導を行い、「遅刻者0」を目指す。	①遅刻者が減少したか。	①遅刻者数は5.1%増加した。(3月1日現在)	B

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成28年1月26日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間の減少が見られる。 ・教員は丁寧に授業を行っているが、教員が一方的に話しをしている授業が多いように感じた。参加意識を持たせる授業を行って欲しい。生徒は、授業中、大きな声で発言してもらいたい。 ・生徒と保護者に資格取得の情報を提供し、資格合格を目指すことなどにより、学習意欲と進路意識を喚起して欲しい。 ・杉戸農業高校の特色を地域の中학생等に積極的に情報発信する必要がある。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒と保護者にも進路指導の情報を提供し、1年生から系統的に進路指導を行って欲しい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は、挨拶をきちんとすることができ、制服もきちんと着ている。 ・携帯電話やスマートフォンを規制するのではなく、活用の仕方についての指導を検討して欲しい。 ・交通事故減少に向けては、交通マナーの向上を指導するしかないのではないか。 ・トイレの環境整備が必要である。 	